

お知らせ

★活動組織の皆様
の情報をお知らせくだ
さい。本誌やホーム
ページなどで紹介さ
せていただきます。
『皆様のまるごと自
慢』をお待ちしてい
ます。

編集後記

★今年の冬は、当初
の暖冬になるとの予
報と違い、正月早々
大雪に見舞われるな
ど、逆に例年よりも
寒いのではないかと
感じているのは、私
だけでしょうか・・
インフルエンザの
流行により、県内の
一部の学校等では学
級閉鎖になっている
所もあるようです。
“梅は咲いたか、
桜はまだかいな”と
いう時期となりました。
皆様も、カゼな
どをお召しにならない
ようにお気をつけ
ください。(A.W)

わたしたちもがんばっています！ パート2

小川原環境整備協議会 事務局 濱野 武 (甲良町)

甲良町は、彦根市の南部大上川扇状地の
扇頭部から扇中部に位置しています。小川
原地区は大上川に隣接し、約60haの農
用地での水稲栽培が中心で、69戸中農業
38戸、生産組合1団体の集落です。

農業用水は、大上川沿岸土地改良区で管
理し、パイプ送水され近くの水揚げから開
水路により各圃場に配水されています。甲
良町の圃場整備完了後歳月が流れ、各水路
の損傷が目立ち始めたころ、平成19年度
より県のまるごと保全対策事業に参加す
ることになり、以来小川原環境整備協議会と
して、農村環境の保全活動に取り組んでき
ました。以下今年度の活動を数点報告させ
ていただきます。

1) 開水路の補修

開水路の機能点検により機能保全活動と
して損傷激しい箇所は順次U字フリューム
の取替作業や水口補修を行っています。



2) 排水路の泥上げ

排水路には泥が堆積し雑草が茂り、排水
の流れが悪くなってきました。毎年、非農
家の区民も一緒に出役をお願いし、泥上げ
作業・除草作業を実施しています。



3) 生き物教室

地域の河川が遊び場でなくなり、子供た
ちは川の生き物を知らなくなっています。
そこで夏休みに生き物教室を開催しまし
た。まずみんなで川に入り魚や生き物を
「見つける」・「捕まえる」面白くて
ドキドキの体験をし、そのあと専門の先生
に捕獲した生物の名前・生態や、河川をきれ
いに保つことの大切さを教えてもらいま
した。少しでも興味を持ってふるさとの生
態系を守ってほしいと願っています。

まるごと保全事
業によって、地域
のふれあいの場が
でき、みんなの協
力で美しい田園環
境が維持できるよ
う頑張っていきたいと思います。



滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

- 本協議会は、活動組織への支援や、採択手続き、交付金の交付事務などを行っています。
- 書類作成にかかる参考資料や活動事例などの情報をホームページでお知らせしています。

<http://www.shiga-nouson-marugoto.com/index.html> Email: kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com

田んぼだいすきふるさと農村こども絵画コンクール受賞作品

<p>知事賞</p>	<p>県教育長賞</p>	<p>地域協議会長賞</p>
<p>「秋のいねかり」 北川 心葉さん 米原市立坂田小学校</p>	<p>「2008年の田植え」 西河 恵史さん 湖南市立岩根小学校</p>	<p>「棚田」 中村 朱里さん 高島市立青柳小学校</p>

まるごとだより 第32号

にぎわいある農村をみんなで守り育てよう



平成26年度 第4回農村まるごと保全技術研修会を開催しました。

平成27年1月27日(火)から1月29日(木)までの3日間に県内3箇所、あぜや農道土手の植栽緑化とまるごとの活動に対応した共済や傷害保険をテーマに、第4回『農村まるごと保全技術研修会』を開催したところ、合わせて約260名の方のご参加をいただきました。



米原会場での様子



高島会場での様子



竜王会場での様子

各会場とも、前半に、出光興産(株)と、雪印種苗(株)の担当者の方より、それぞれが取り組んでいるグランドカバープランツの特徴を紹介いただきました。

後半は、JA共済連滋賀と日新火災海上保険(株)の担当者の方より、まるごとの活動に取り組む際、万が一の怪我などをしたときの保険対象となる商品を紹介していただきました。

目次

☆平成26年度 第4回農村まるごと保全技術研修会を開催しました。

☆人・生きものにぎわう農村づくり実践研修会を開催しました。

☆次の世代につなごたい 長浜市のまるごと活動 (長浜市)

☆わたしたちもがんばっています。パート1 「合戸地区農村環境委員会」 (東近江市)

☆わたしたちもがんばっています。パート2 「小川原環境整備協議会」 (甲良町)

発行 (2015.2)

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

〒521-1224
東近江市林町601番地
水土里ネット滋賀内
電話 0748-42-4806
FAX 0748-42-5574
Email: kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com

人・生きものにぎわう農村づくり実践研修会を開催しました。



平成27年1月23日(金)、水土里ネット滋賀 3階大研修室において、標記研修会を開催し、滋賀大学環境総合研究センターの藤栄准教授の『誰が生きものブランド農産物を購入するのか?』と題した講演をいただいたあと、豊かな生きものを育む水田づくりに取り組む活動組織の方々と交えてパネルディスカッションを行いました。



次の世代につなぎたい 長浜市のまるごと活動

長浜市農政課

長浜市は、滋賀県の北東部（湖北地方）に位置し、平成の大合併によりその市域は琵琶湖から岐阜県、福井県境まで広がり、東西約25km、南北約40km、面積は680.79km²、県下第2位の広さを有する街です。本市における「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」に取り組んでいる活動組織は、今年度、新たに10の活動組織が加わり、138の活動組織が、約5,484haの協定農用地を定め、農地や集落が持つ防災機能や環境の保全、美しい景観の保全のため安全で安心な生活を支える役割（多面的機能といえます。）を担うべく、さまざまな共同活動に取り組んでいます。

農地維持活動では、農地や集落が持つ多面的機能を維持し、発掘させるため、地域住民が共同で行う草刈りや泥上げ、砂利の補充などの



■ 水路の泥上げ ■

基礎的な保全活動のほか、多面的機能交付金となり取り組むこととなった「地域資源の適切な保全管理のための推進活動」として農業者や地域住民による寄合いなどの推進活動により、地域資源保全管理構想を取りまとめるべく活動されています。

資源向上活動では、地域資源の質を向上させる共同活動として、水路の目地詰め【施設の軽微な補修】や水路や農道法面への植栽活動



■ のぼりでの啓発 ■

【景観形成】、啓発看板の設置やのぼりの掲出活動【広報・啓発】のほか、水路や農道等の農業用施設の周辺での定期的なごみ拾い【生活環境保全】が行われています。

さらに、多くの地域で子どもから高齢者までが集



■ 稚魚の放流 ■

まり、いっしょに生きもの観察会や魚の放流【生態系保全】など、各活動組織が定める「活動計画書」に基づく取組みが行われており、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」の効果が出てきていると感じています。



最後になりましたが、平成26年度から多面的機能支払交付金事業へとリニューアルされた当該事業も、平成27年度からは法律に基づく事業へとさらに強化される予定となっています。

本市といたしましては、大きく変わりつつある農業情勢のなか、市内の農用地や水路・農道・ため池等の農業用施設や地域のコミュニティを守り・育み、次の世代に引き継いでいけるよう、このまるごと事業を推進し、各活動組織の皆さんとともに多面的機能が十分に発揮される街をめざして取り組んでいます。



■ 春に備えた実践活動 ■

わたしたちもがんばっています！ パート1

合戸地区農村環境委員会 代表 西田 勝司

私たちが合戸町は、旧蒲生町にあり、日野川と佐久良川の合流地点に広がる、戸数39戸の集落です。農家戸数は、減少傾向で、17戸となっています。

農村まるごとの事業については、大きく3部会に分けて推進しております。

●共同部会（従来からやってきた大字としての環境保全的な川掃除（4月・8月）や堤防の草刈り（7月・11月）などを自治会事業として推進する。）



3kmにもおよぶ堤防除草作業

●農家部会（農業組合長と水利委員で構成し、4月の耕作者による農地自己診断を受けて、通水期に機能診断を行い、秋以降に補修活動の計画と実施を推進する。）

●環境部会（村の中における様々な世代を含むグループの団体長を中心に構成し、子ども会の水路の生き物調査、婦人会の生活用水路の水質のバックテスト、老人会は、年2回の農道ゴミ拾い活動、消防では生活用水路に水利堰板の設置などに取り組



子ども会による生き物調査

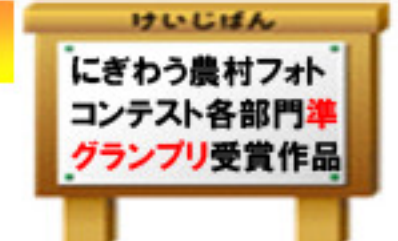


んでいます。）

これからの課題としては、今は、共同作業も30名を超える参加者があり、みなさんの献身的な協力できれいな環境が維持できていますが、やはり高齢化の進む中で、どうすればこれからもやり続けていくことができるのか、知恵と工夫のいるところです。とりわけ獣害柵設置で作業も複雑になってきた広い堤防草刈りについては、「ジャノヒゲ」などのカバーランツやイノシシの嫌いな「マンジュシャゲ」を植え付けるなど検討中です。また、田んぼに来る野鳥観察会で学習すると、水路に来るアオサギやカワウ、ときにはカワセミも、畦畔にいるゴイサギやノスリ、竹藪のカワラヒワ、トラクターについて歩くケリやアマサギにも、思わず目が行くものです。さらに、地域に2か所ある自噴井の水での小水力発電への挑戦や、田んぼの用水や飲み水はすべて琵琶湖からですが、その仕組みや経路をたどる旅など、実際に見学すれば身近な環境を見る目ももっと変わると考えています。



子ども会による透視度調査



自慢したい農村風景部門



「桜が満開の田舎の風景」 加納 雅之 さん



「色とりどりな花畑の風景」 松本 雅之 さん

力強い共同活動部門



「なかなかなしかなしな」 古川 政博 さん



「野鳥観察会」 古川 雅之 さん

世代をつなぐ交流部門



「春入っているかな」 古川 雅之 さん



「ゆんたんのた」 古川 雅之 さん